

東大寺

華嚴宗大本山

〒630-8587 奈良市雑司町406-1

TEL.0742-22-5511 FAX.0742-22-0808

URL <http://www.todaiji.or.jp>

【概要・歴史】

東大寺は聖武天皇の皇太子基親王の菩提を追修するために、神亀5年（728）に建てられた金鐘山寺（金鐘寺）に源を發し、天平13年（741）に国分二寺（金光明寺・法華寺）建立の詔が發せられたのに伴い、この金鐘山寺（金鐘寺）が昇格した大和国金光明寺（国分寺）を前身とします。続いて天平15年（743）に盧舎那大仏造立の詔が發せられますが、造像の国家事業の最初の計画地紫香樂（現滋賀県信楽町）が放棄され、平城遷都とともに大和国金光明寺、すなわち現在の東大寺の寺域が選ばれて、天平17年（745）より金銅の盧舎那大仏の造像工事が始まりました。3ヶ年8度の鑄継ぎを経て、天平21年（749）に完成、同時に大仏殿の建立も進行して、天平勝宝4年（752）4月に盛大な開眼供養會が営まれました。

この少し前から「東の大寺」という名で誰からともなく呼ばれるようになっていましたが、その後、西塔や東塔、講堂や三面僧房などが造東大寺司の手によって造営され、「東大寺」としての七堂伽藍が次第に整い、それはこの役所が廃止される延暦8年（789）まで続けられました。

東大寺は国分寺として建立されたので、天下泰平・万民豊樂を祈願する道場であったことはいうまでもありませんが、同時に仏教の教理を研究し学僧を養成する、いわば今日の総合大学のような役目もあり、「華嚴」をはじめ奈良時代の六宗の宗所（研究所）が設けられていました。平安時代にはいると、六宗に加えてさらに「天台」と「真言」の教学も盛んに研究されるようになり、「八宗兼学」の学問寺となりました。

斉衡2年（855）、大地震によって大仏さまの頭部が落ちるという事態になりましたが、真如法親王によって修復が進められ、貞観3年（861）に開眼供養が行われました。その後、火災や落雷などによって講堂や三面僧房、西塔などが焼失、暴風雨によって南大門や大鐘楼が倒壊したこともありましたが、平安時代も末、源平の争いのあおりから、治承4年（1180）に平重衡の兵火により大仏殿をはじめ伽藍の大半が焼失してしまいました。その復興は俊乘房重源によって翌年から着手され、文治元年（1185）には後白河法皇を導師として、大仏さまの開眼供養が行われました。翌文治2年に周防国が東大寺造営料所に当てられてからは東大寺復興事業は着々と進み、建久6年（1195）には、後鳥羽上皇や源頼朝も臨席して大仏殿落慶供養が行われました。こうして諸伽藍が復興されるにつれ、沈滞気味であった教学活動も活発になり、鎌倉時代には多くの学僧を輩出しました。

ところが、永禄10年（1567）に至って三好・松永の乱が起こり、大仏殿に陣取った三好勢に対し、松永の軍勢が火をかけるという事態になり、東大寺は、二月堂・法華堂・南大門・転害門・正倉院・鐘楼などわずかな建物を残して灰燼に帰しました。時まさに群雄割拠の戦国時代であったので、東大寺の復興は難渋をきわめ、大仏さまの仏頭も銅板で覆う簡単な修理しか出来ませんでした。しかし江戸時代に入ると、龍松院公慶が幕府に上申し、諸国勧進と諸大名の協力を懇願して復興に取りかかり、その結果、大仏さまの開眼供養が元禄5年（1692）に、さらに大仏殿の落慶供養が宝永6年（1709）に行なわれました。それ以後も、伽藍の整備は歴代の大勧進職によって続行されました。

明治元年（1868）の神仏分離令、同4年（1871）の寺社領没収は、東大寺の存立に大きな危機をもたらし、宗制上「華嚴宗」を名乗ることなど寺院改革を迫られました。そうしたなか、明治・昭和の大仏殿大修理をはじめ平成の南大門仁王像大修理など、諸伽藍の維持に努め新たに東大寺総

合文化センター（金鐘会館・東大寺ミュージアム・東大寺図書館・東大寺史研究所・華嚴学研究所）を設け、現在に至っています。

東大寺はその歴史から貴重な文化財を今なお多く蔵していますが、そればかりではなく二月堂修二会をはじめ伝統的な仏教儀礼の宝庫でもあって、毎年日本全国はもとより、世界各地から多くの人々が参詣に訪れています。

【交通】

◎近鉄奈良駅・JR奈良駅より奈良交通市内循環外回りで大仏殿春日大社前下車すぐ。

◎近鉄奈良駅より徒歩約15分

【参拝可能な法要など】

晦日正月 午前0時より8時まで 「初詣」 無料参拝・観相窓開扉 大仏殿
1月7日 午後1時より 「^{しゆしやうえ}修正会」 年頭祈願 大仏殿
2月節分 午後2時より 「^{まぎ}豆まぎ」 / 午後6時より 「^{ほし}星祭り」 二月堂
3月1日～14日 「^{しゆにえ}修二会」（お水取り）、毎夜7時よりお松明行事あり
(12日は午後7時30分、14日は午後6時30分から) 二月堂
4月8日 午前8時より 「^{ぶっしやうえ}仏生会」（花祭り・甘茶掛け） 大仏殿
5月2日 午前8時より 「^{せいぶてん}聖武天皇御忌最勝十講」 天皇殿
午後1時より 「^{せいぶてん}聖武天皇祭」 大仏殿まで^{ねりくよう}練供養 大仏殿 鏡池舞楽台にて舞楽・慶讃能奉納
午後1時半より 「^{あきうた}慶讃能」 鏡池舞楽台にて舞楽奉納
午後3時より 鏡池舞楽台にて慶讃能奉納
5月3日 午前11時より 「^{けんちやく}献茶式（裏千家）」 大仏殿
7月28日 午前8時より 「^{げんじゆえ}解除会」（茅の輪くぐり） 大仏殿
8月7日 午前7時より 「^{だいぶ}大仏さまお身拭い」 大仏殿（但し、開門は午前7時30分より）
8月9日 午前8時より 「^{おとく}功德日」 二月堂
8月13日 午後7時より 「^{ばんこく}万国天災人災物故者慰霊法要」 大仏殿
8月13日～14日 午後7時より 夜間特別参拝・観相窓開扉 午後9時まで 大仏殿
8月15日 午後7時より 「^{ばんとう}万燈供養会」 午後10時まで 大仏殿
10月15日 午前10時より 「^{だいぶ}大仏さま秋の祭り・献茶（表千家）」 大仏殿
午後1時半より 「^{あきうた}慶讃能」 鏡池舞楽台にて慶讃能奉納
12月14日 午前8時半より 「^{ぶつみやうえ}仏名会」（千反礼拝） 二月堂

【参拝可能なお堂・尊像など】（大仏殿・法華堂・戒壇堂は有料）

- ◎大仏殿（国宝） 本尊盧舎那仏坐像（国宝） 八角灯籠（国宝） 如意輪・虚空蔵菩薩坐像（重文）ほか
- ◎二月堂（国宝） 舞台から奈良盆地が展望できます 本尊は絶対秘仏
- ◎法華堂（国宝） 本尊不空羼索観音菩薩像（国宝）ほか
（三月堂） ※日光・月光菩薩立像は東大寺ミュージアムに安置されています。
- ◎四月堂（重文） 十一面観音菩薩像（重文） 普賢菩薩像ほか
- ◎不動堂 五大明王像
- ◎鐘楼（国宝） 大鐘（国宝）
- ◎戒壇堂 四天王像（国宝） 多宝塔ほか
- ◎南大門（国宝） 阿形・吽形仁王像（国宝）、石造獅子（狛犬）（重文）2 軀
- ◎大湯屋（重文） 内部は非公開
- ◎転害門（国宝）

【特別公開・秘仏開扉】

- 7月5日 午前11時頃より午後4時まで **俊乗堂** 俊乗房重源上人坐像（国宝）
阿弥陀如来立像（重文） 愛染明王坐像（重文）
- 10月5日 午前10時頃より午後4時まで **勸進所** 僧形八幡神坐像（国宝） 五劫思惟阿弥陀像（重文）
公慶堂 公慶上人坐像（重文）
- 12月16日 午前10時頃より午後4時まで **開山堂**（国宝） 良弁僧正坐像（国宝）
法華堂（国宝） 執金剛神立像（国宝）
- 午前9時頃より午後4時まで **俊乗堂** 俊乗房重源上人坐像（国宝） 愛染明王坐像（重文）
- ※上記、法要・参拝・開扉等の記載内容について、特に注記のない場合は例年のものです。
大法要や修理事業等の為、追加・中止・変更になる場合もあります。

【写経・写仏のご案内】

- ◎写経は書家榊莫山氏手本の『華嚴唯心偈（百字心経）』と『般若心経』の二種類があります。
写経奉納料は、いずれも1部1,500円です。
- ◎写仏は東大寺蔵『華嚴五十五所絵巻』等に描かれた三種類の色紙大の彩色手本があります。
写仏奉納料は1部3,000円です。
- ◎奉納頂いた東大寺の写経・写仏は8月7日の大仏さまお身拭いの後、大仏さまの胎内にお納めさせていただきます。写経・写仏ともに大仏殿・二月堂・本坊受付でお求め頂けます。
- ◎なお、東大寺では、本坊に写経道場を設けております。道場で写経・写仏を写していただけます。

【東大寺ミュージアムと大仏殿のセット券のご案内】

- ◎大人（中学生以上）… 1,000円・小学生… 400円（東大寺ミュージアムの開館日のみ販売）

【東大寺ミュージアム 入館のご案内】

◎入館料

	個人	団体(30名以上)
大人(大学生以上)	600円	550円
高校生	600円	500円(教職員は無料)
中学生	600円	400円(教職員は無料)
小学生	300円	200円(教職員は無料)

◎開館時間

	4～10月	11～3月
開館	9：30	9：30
閉館	17：30	17：00

（入館はミュージアム閉館の30分前まで）

原則無休ですが、「東大寺総合文化センター」の電気設備等法定点検のために、東大寺ミュージアムも臨時休館する場合があります。

【大仏殿・法華堂（三月堂）・戒壇堂入堂のご案内】

◎入堂料

	個人	団体(30名以上)
大人(大学生以上)	600円	550円
高校生	600円	500円(教職員は無料)
中学生	600円	400円(教職員は無料)
小学生	300円	200円(教職員は無料)

◎入堂時間

	4～10月	11～3月
開門	7：30	8：00
閉門	17：30	17：00

- ・ 大仏殿・法華堂・戒壇堂、東大寺ミュージアム、それぞれに上記の入堂料をいただいております。(平成30年(2018年)1月1日より入堂料・入堂時間が一部変更になりました。)
- ・ 予約の受付はしておりません。事前連絡も不要です。また、東大寺ミュージアムと大仏殿はセット券も販売しております。
- ・ 下見で入堂される場合は、有料(1人600円)になります。
- ・ 団体引率の添乗員・乗務員は無料です(高校生・中学生・小学生団体の場合は、添乗の医師・カメラマンを含む)。ただし、「団体引率の添乗員」とは、単に「添乗員資格を持つ者」という意味ではなく、常識的な判断で理解される人数で、「添乗員資格を持ち、しかも実際に引率される方」を意味します。
- ・ 小学生団体・中学生団体・高校生団体に限り、修学旅行など学校行事として引率入堂される教職員は、常識的な判断で理解される人数であれば無料とします。(判断が難しい場合は大仏殿までお問い合わせ下さい。)
- ・ 旅館・ホテル・休憩所・土産物店・駐車場等の第三者への発券はしませんので、代理購入を依頼されませんようご注意ください。
- ・ 小学校・中学校・高等学校で生徒人数が30名に満たない場合は、少人数校である旨を証明する減免申請書(見本参照)を当日提出して下さい。団体として取り扱います。減免申請書には学校長の公印が必要です。
- ・ 子供会等からお越しの場合は、大人の方ばかりで30名以上、小学生の方ばかりで30名以上おられる場合に限り、団体扱いと致します。
- ・ 基本的にガイド研修は無料ですが、代表者から東大寺寺務所へ事前に「入堂料免除申請書(印付)」を提出し、申請して下さい。研修当日、窓口でその旨をお申し出下さい。
- ・ 奈良市内の小学校・中学校は無料です。但し、教職員が引率し、授業の一環として入堂される場合で、団体行動される場合に限りです。

